

千葉農業事務所

普及だより

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chiba/>

【第142号】 2016年3月1日

発行：千葉農業事務所改良普及課
千葉農業改良普及事業協議会
千葉市緑区大金沢町473-2
(千葉農業事務所 分庁舎)
TEL043(300)0950
FAX043(293)2710
E-mail: chibaaec@pref.chiba.lg.jp



若手が産地を牽引！ 「わけねぎ研究会」(千葉市)

「酪農を格好良くしたい」 八千代市 加茂太郎さん



輸入牧草や配合飼料を全使用量の半分に抑えています。

酪農のファンづくり

五〇歳を手前にこんな言葉を発する酪農家があります。就農してから十一年間、仕事の効率化の為に施設整備を進め、一年に牛舎を五〇頭から七十六頭に建てに改築しました。「二年後には牛舎を満杯にし、出荷量を一倍に増やす」と明確な目標を持っていきます。

飼料費低減で安定経営

加茂牧場の強みのひとつに、飼料の低コスト化があげられます。自作の飼料用トウモロコシや食品工場から出る粕類の利用に加え、市内水稲農家と連携し一昨年から稲サイレージ、昨年から飼料用米の利用を始め、

新たに認証された千葉県指導農業士の紹介

平成二十七年年度の千葉県指導農

業士・農業士の認証式典が平成二十七年十一月十八日に千葉県庁で行われました。今年度管内では二名の方が「千葉県指導農業士」に認証されました。これからの一層のご活躍を期待します。

★高橋 秀行さん
(八千代市・酪農)

★市川 善美さん
(八千代市・水稲+野菜)



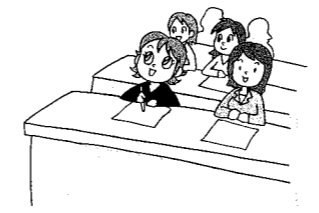
千葉県農業士・千葉県指導農業士
認証式典 (千葉県庁)

堆肥利用促進ネットワークの紹介

千葉県では、畜産農家の協力のもと堆肥の成分や販売金額などをホームページで公開しています。現在、千葉市で二十五件、市原市で二十八件、八千代市で一〇件の情報が登録されています。インターネットで「堆肥ネットワーク」と検索すると表示されます。

平成二十八年年度農業経営体育成セミナー「受講生大募集中！」

就農間もない青年農業者向けの研修会として、農業経営体育成セミナーを開催しています。セミナーは三年制で、講義や実習、視察を行い、営農技術向上と仲間づくり支援を行っています。受講の希望や詳細を知りたい方は農業事務所までお問い合わせください。



飛躍する若手組織「わけねぎ研究会」の紹介

昨年三月、JA千葉みらい土気地区出荷組合連合会わけねぎ部会に、若手生産者で構成する「わけねぎ研究会」が誕生しました。この一年間に研究会は次のような活動を進めてきました。

わけねぎの棚持ち向上

夏場の収穫後の鮮度低下防止を目的に、早期出荷密植栽培試験に取組み、品質向上につながる効果を確認しました。

出荷調製作業の負担軽減

わけねぎ栽培で八割の作業時間を占める出荷調製作業に焦点を当て、改善をすすめています。(写真左下)
研究会活動が、若手生産者のやる気だけでなく課題解決のスピードアップにもつながることを期待します。

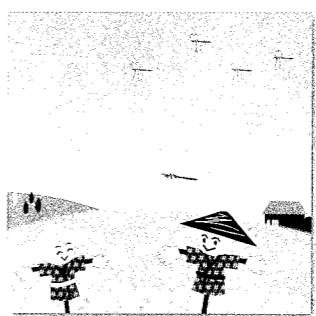
飼料用米・WCSの生産状況について ―「夢あおば」の栽培ポイント―

千葉地域の飼料用米の栽培状況

平成二十七年産の千葉県内の飼料用稲の作付面積は、千八百八十四haとなっています。品種では専用品種の「夢あおば」が五百八十四ha、次いで「アキヒカリ」三百三十七haとなっており、この二品種で七十八%を占め作付けが増加する傾向にあります。

千葉地域では合計百五十haであり、飼料用専用品種である「夢あおば」を中心に栽培されています。

しかし、飼料用米は、現地栽培経験が少なく、安定収穫を図るためには、地域での生育把握と栽培技術の向上が望まれます。



そこで、農業事務所では、管内で作付け面積の多い「夢あおば」を取り上げ、その生育調査を実施し、今後の安定収穫に向けた指針作りをすすめています。

飼料用専用品種「夢あおば」の特徴

★飼料用米・飼料用稲(WCS)専用品種です。

★コシヒカリに比べ、成熟期はやや遅い。茎葉収量が高く、草型は偏穂重型。耐倒伏性は極強で湛水直は栽培にも適します。

調査結果からわかった栽培のポイント

★寒さに弱いので、移植時期は五月以降とします。前年の作付けでは、五月中旬移植で、収穫は九月二十日前後となり、出穂から約四十五日かかりました。そのため、用水の確保が重要な要素となります。

★茎葉の繁茂が旺盛であり、一部で紋枯病の発生が見られました。紋枯病の発生を防ぐ対策が必要です。

★移植栽培では一株四本植えて坪五十から五十五株程度のやや薄めの栽植密度が向いています。



夢あおば(左) コシヒカリ(8/下)

稲WCSはひっぱりだこ

千葉地域では、八千代市で十一ha、市原市で二ha作付けされています。輸入牧草が高騰する中、稲WCSの畜産農家からの需要は多く、飼料用稲と同様に生産が拡大しています。

畜産農家や収穫請負組織との連携による取組が各地で広がっています。収穫作業を委託することから、秋季の作業集中を避けられることも大きなメリットです。



専用収穫・調製機での収穫調製

△アグリトップランナー▽

ダイコン産地の守り人

市原市 大野茂樹さん



大野茂樹さん(四十五才)は市原市農業振興協会そさい部の部長を務め、姉崎蔬菜組合の一員として、ダイコンやスイカなどを栽培しています。

大野さんは次男ですが、「農家を親の代で終わらせるのはもったいない。」という信念から、二十四才の時に就農しました。それまでは自衛隊員として、国防を担っていました。現在は地域の担い手として産地を守っています。

産地の維持・発展のために

姉崎地域は春・秋冬だいのこの指定産地で、平成十九年の共同洗淨選別施設の稼働を機に、右肩上

八面六臂(はちめんろくべい)の活躍

大野さんは組合の若手で構成される選果部の一員で、施設の運営や新品種の試験栽培などを担っています。その試験栽培をもとに、組合で導入するかどうかを判断するので、責任重大です。また、日中は農作業を行い、日没後は施設の運営や出荷作業を行っています。産地拡大に向けて、これからも益々の活躍が期待されます。

△生産技術▽

ナシの早期成園化技術の紹介

八千代市 宮崎貴文さんの事例

ナシは、苗木を定植してから成木並みの収量を得るまでに十数年を要します。結実まで無収入となるため、すみやかに成木化させることが課題であり、いくつかの解決方法があります。

今回は、新植園での取り組みとして、八千代市・宮崎貴文さんの事例をご紹介します。この園では、一年生苗木を直接定植して、早期に樹冠面積の拡大を図る方法で管理をしています。

宮崎さんは、平成二十一年に新植園十アールで「幸水」苗木を定植し、今年で七年目を迎えました。樹の生長に合わせて、五年目に八十果を着果させて、今年約百二十果の収穫でした。毎年少しずつ量を増やし、十年目には、ほぼ成木並み収量を得る見込みです。

樹冠面積を順調に拡大させるポイント
まずは、苗木を定植してから成木並みの収量を得るまでに十数年を要します。結実まで無収入となるため、すみやかに成木化させることが課題であり、いくつかの解決方法があります。

まずは、苗木を定植してから成木並みの収量を得るまでに十数年を要します。結実まで無収入となるため、すみやかに成木化させることが課題であり、いくつかの解決方法があります。

まず良質な苗木を適切に定植し、こまめなかん水と施肥を行います。樹づくりでは、骨格枝の育成を最優先とします。例えば、せんだ定では骨格枝先端を強化し、育成の妨げになる枝のせん除(強せん定)に注意)、側枝の水平誘引等です。先端から基部までの目標とする樹形を描きながら、樹の生長に合わせた管理が必要です。

なお、詳しい内容を知りたい方は、農業事務所までお問い合わせください。



八千代市・宮崎貴文さん(管理中の若木の前で)